



地域企業紹介 91

株式会社相模運輸

代表取締役 吉田 修一

「物流の最適化に向けて」

今日、「モノ」が遅れず確実に届くということが「あたりまえ」になっています。当日配送のサービスをはじめ、これだけ時間通り正確にモノが届くのは日本だけでしょう。これは、輸送事業者並びに従事者の弛まぬ努力のおかげにほかなりません。特に国内貨物輸送量(トンベース)の9割を占めるトラック輸送は、日本の物流の主役として国民生活や経済を支えています。“モノが回らないと、経済が回らない”と言われるように、社会にとって必要不可欠な事業を長きにわたり続けてきているのが株式会社相模運輸です。

同社は、一般貨物自動車運送事業者として、昭和35年に吉田修一社長の父である幸一氏によって創業され、今年で創立65年目を迎えます。現在、相模原を中心に各地へオーダー輸送を行っており、主な輸送品目は精密機械、機械部品、食品、引っ越し貨物など多岐にわたります。吉田社長は、大学卒業後、立川に本社がある多摩運送株式会社で6年間の勤務経験を経て同社に入社、平成12年に代表取締役に就任しました。トラック運送業は、典型的な労働集約型産業であることから効率化が難しく、法規制などの外的要因に影響を受けやすいため、経営の安定性を保つために事業の多角化に取り組んできたそうです。時代の変遷とともに貸倉庫・貸事務所・貸店舗部門、損害保険代理店、引っ越し部門及びトランクルーム部門を開設、さらには産業廃棄物収集運搬部門から特定信書便事業などの新事業を適時開設。不動産投資にも力を入れてきたことが安定した事業の継続につながったのではないかと吉田社長。

そんな吉田社長は、生まれも育ちも相模原。清新小学校から清新中学校を経て、神奈川県立相模原高校へ進学。中高時代は、ミュンヘンオリンピックで金メダルを獲得した大古選手や森田選手に憧れてバレーボール部で汗を流す。その後、成蹊大学経済学部経営学科へ進学、アメリカに憧れてアメリカンフットボール部に入部。練習では格闘技さながらのハードなタックルで生傷や怪我が絶えず、年齢を重ねるごとに古傷が痛むこともあるのだとか。それでも、今振り返るとコンタクトのあるスポーツは常に真剣勝負で面白かったそうです。吉田社長が相模運輸に入社したのは昭和63年。当時は昭和バブルの真っただ中、多くのドライバーは給料の高い建設業界へ流れてしまうため、深刻なドライバー不足になったそうです。そのような状況から、吉田社長はドライバーとして大阪や九州など日本全国を休みなく走り抜ける日々が続きます。とてもきつかったそうですが、自社の仕事だから無理もできたのだといいます。趣味はプロ級の腕前をもつゴルフとアユ釣りです。もともとは海釣りからはじ

代表取締役：吉田 修一 (よしだ しゅういち)
所在地：神奈川県相模原市中央区千代田 2-1-8
従業員数：15名
事業内容：運送業

まり、マリアナ海溝や八丈島で磯マグロやかんぱちなどの大物を釣っていました。現在では相模川や道志川でアユ釣りを楽しんでいるとのこと。ちなみに、おすすめポイントは岐阜県の郡上八幡だそうです。

長年にわたる運輸業界での経験と人脈を持つ吉田社長は、平成28年から一般社団法人神奈川県トラック協会の会長に就任され、トラック業界の発展と2024年問題などの課題解決に取り組んでいます。2024年問題とは、昨年4月からトラックドライバーの時間外労働の960時間上限規制と改正改善基準告示が適用され、労働時間が短くなることで輸送能力が不足し、「物流の停滞」「物流コストの増加」「運送会社の収益減少」「ドライバーの収入減少」などの問題のことをいいます。神奈川県内の貨物自動車運送業者は約3千社(全国に約6万社)が存在し、とても重要な問題となっています。こうした問題を解決していくためには、予約システムの導入による荷待ち時間や待機時間の削減、業務効率化、長距離輸送や配送オーダーのリードタイム延長など、荷主とトラック事業者が連携して取り組んでいく必要があります。また、荷主へはドライバーの労働環境改善などに取り組むための適正な運賃の設定や燃料サーチャージ、付帯作業料金、高速道路利用料などの收受への理解が重要なポイントとなります。さらに消費者の方々には、再配達を減らす工夫やまとめ買いによる運送回数の削減と適正価格への引き上げに対する理解が必要となります。しかしながら、なかなか消費者に理解を得るまでに至っていないのが現実だそうです。これまで、国土交通省や関連省庁も動いているが、人件費の上昇や燃料費の

高騰があっても価格転嫁はすんなり出来ず、荷待ち・待機時間や再配達も無料が“あたりまえ”になっています。吉田社長は、この“あたりまえ”を消費者の方々に見直して頂き、変化を受け入れていただけるよう、これからも「物流の最適化」に向けて意識改革を進めていきたいと話します。

トラック輸送は国民の安全や生活、そして経済を支える重要なインフラであり、ライフラインであるといえます。今後、労働人口が減少し、さらなる労働時間の短縮要請が見込まれる中、これまで通り“あたりまえ”にモノが届くことを止めないためには、トラック事業者と荷主、そして消費者が、より理解を深めていくことが大切といえるでしょう。引き続き、「物流の最適化」に向けて取り組む吉田修一社長とトラック輸送事業に従事する多くの方々からエールを贈ります。

団体役職

- ・一般社団法人神奈川県トラック協会会長(平成28年6月～)
 - ・公益社団法人全日本トラック協会副会長(令和3年7月～)
 - ・神奈川県自動車交通共済協同組合副理事長(平成20年5月～)
 - ・陸上貨物運送事業労働災害防止協会神奈川県支部長(平成28年5月～)
 - ・一般社団法人神奈川県自動車会議所会長(平成28年5月～)
 - ・社会福祉法人すすきの保育園評議委員を歴任(令和2年5月～)
- ※(株)さがみはら産業創造センター取締役(平成14年～平成31年)

全国に広がるインキュベーション活動 ～インキュベーション・マネージャー養成に貢献するSIC～

SICはビジネス・インキュベーション(以下、BI)活動を行う支援機関として、一般社団法人JBIAに団体登録しています。JBIA(日本ビジネス・インキュベーション協会)は産業創造を目的として主に起業家やベンチャー企業、近年ではスタートアップ企業を支援する人材の育成・輩出、またそのためのネットワーク形成や、支援活動に必要な情報の収集・共有・アップデートを行っており、SICはJBIAと、また全国の産業支援機関と相互に協力しながら日々、研鑽にも努めています。

起業家等の支援に従事する支援者、ひいては地域における産業創造の担い手を“インキュベーション・マネージャー(以下、IM)”と呼び、JBIAではIMの養成研修を毎年実施し、IMの認定制度を設けています。養成研修は約5ヶ月間にわたって、スクーリング、起業家対応実習、BI現地実習がカリキュラムとして構成され、SICは研修生を毎年、全国各地からBI現地実習機関として受け入れていきます。2017年には全国にわたる支援機関で活躍するIMの育成に努めてきたとして、JBIAから感謝状を頂きました。今年は秋田県、福島県、神奈川県から各1名ずつ、計3名の研

修生を9月に受け入れ、累計は70名を超えています。研修の中では相模原市の産業特性や重点施策からSIC内の具体的な支援活動を説明し、各地域での活動に関して意見交換も行いました。研修生と直にコミュニケーションをとり、最新情報や支援実務における課題などを共有することで、SICも日常の支援活動に活かしつつ、さらなるネットワーク形成につなげています。



さらに、JBIAでは一定の経験と知識を獲得したIMをシニアIMとして認定しています。前述のIMの養成研修では、指導力や人柄においてふさわしいとされたシニアIMが各受講生に一人ずつ、インストラクターとして4ヶ月間の指導を行います。SICは全国でもIM数が多いBIに位置付けられ、全10名の認定IMのうち、3名がシニアIMとして登録し、毎年インストラクターとなって他地域の新人IM

育成にあたります。支援活動に従事している現役のIMが後進の育成にも従事するスキームは机上の理論にとどまらない、実践型の育成システムとも言えます。JBIAシンポジウム2024(令和6年11月8日(金)開催テーマ:「IM養成のエコシステム」於:機械振興会館研修室)では全国96名のシニアIMから4名がインストラクター報告を行い、SICの片山(事業創造部インキュベーション課長)が『主体的な“支援機会の創出”でIMマインドを醸成』と題して活動報告と、地域でのスタートアップ創出におけるIMの役割などについて、SICで実際に行っている支援活動や成果をもとに発表しました。



地域を超えて広がる起業家支援活動において、SICは支援者の育成にも貢献しながら相模原を地盤としたインキュベーション活動に、これからも邁進していきます。

謹賀新年

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

令和7年の幕開けに際し、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。また、平素より株式会社さがみはら産業創造センターの活動にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、ポストパンデミックにおいて、デジタル技術の進展や持続可能性への意識の高まりにより、企業活動のあり方が再定義される中、入居企業への個社支援をはじめ、地域産業の活性化に向けた多様な取り組みを進めてまいりました。特に、地域中小企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)推進や生産性向上に向けたロボット関連事業の推進、地域企業の採用支援や人材育成事業の実施等により、多くの企業の皆様と共に新たな価値創出に取り組むことができました。

本年、当センターは創立 26 年目の年を迎えます。この四半世紀、私たちは「地域経済の発展に貢献する」という理念のもと、相模原市を中心とする地域産業の発展を目指し、様々な挑戦を重ねてまいりました。この 25 年の歩みは、ひとえに相模原市をはじめとする株主の皆様、入居企業や地域企業の皆様、そして多くのパートナーの皆様のご協力の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。

これからの地域産業には、ますます革新と柔軟性が求められます。当センターでは、これまでの経験と実績を礎に、新たなステージへの挑戦を続けてまいります。そして、今年は特に以下の 3 つを重点的に取り組んでいきます。

1. 起業支援の拡充

橋本駅周辺や相模大野駅周辺地域を創出拠点として、新しいビジネスアイデアを持つ起業家の方々が安心して挑戦できる環境の整備を進めます。また、Desk10 などの「場」の強みを活かし、起業家がスケールアップするための長期的な支援を促進します。

2. 地域連携の強化

自治体、地域の大学や研究機関、大手企業との連携を深め、起業の促進を図るとともに、新たな技術開発などに取り組みます。また、参画している株式会社ケイエスピーが組成する投資ファンドなどを活用し、相模原から IPO 企業の創出を目指すなど、地域全体の競争力向上に貢献することを目指します。

3. オープンイノベーション推進拠点の整備

大手企業との連携により新たな研究開発拠点の整備を進めます。これにより、規模拡大や生産拠点の確保を必要とする入居企業の市内移転を進めると共に、成長産業の相模原市内への誘致を促進することで、地域企業とベンチャー企業、ベンチャー企業と大手企業の連携によるイノベーションを創発し、地域経済の一層の活性化につなげます。

令和 7 年も、私たちは地域から未来を創る“ビジネスインキュベータ”として、皆様と共に歩んでいきたいと考えています。

どうぞ本年も変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝と貴社の益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

株式会社 さがみはら産業創造センター

代表取締役

橋元 雅敏



橋本韓国酒場 ぶーなっち

橋本駅北口より徒歩 4 分、ネオンの看板が印象的な韓国料理のお店。店名の「ぶー」は言葉の響きから豚肉や姉妹店のスナック「ブーベ」にかかっており、「なっち」は韓国語の「サンナッチ = タコ」を意味していることから、お店一押しのメニューにもなっています。

今回はランチで 3 品を注文。ランチ全品に日替わりの小鉢 3 種 (パンチャン) が付いており定食を引き立てます。オーナー、店長、厨房責任者が韓国、新大久保等に足を運び独自の仕入れルートを開拓。橋本にいなながら本場の味を存分に楽しむことができます。

夜はやかんで味わうマッコリや種類が豊富なチャミスルと店長が目の前で焼き上げる生サムギョブサルを楽しむたいですね。ごちそうさまでした!(大谷)



豚肉とタコの旨辛炒め
チュクミサムギョブサル定食



ご飯物の王道 石焼ビビンバ



優しいスープがクセになる コムタン定食

【住所】神奈川県相模原市緑区橋本 3-15-17 HK ビル 1F102

【TEL】042-703-0800

【営業時間】<ランチ>月~土 11:00~14:00(L.O.13:30)

<ディナー>月~木 17:00~25:00(L.O.24:00)

金・土・祝前日 17:00~26:00(L.O.25:00)

日・祝日 12:00~24:00(L.O.23:00)

【定休日】水曜日

【URL】<https://boo-natch.jp/>



店長の岡田さんと厨房責任者の奥様



第18期職場リーダー養成塾が修了しました！



6月8日から始まった第18期職場リーダー養成塾は、12月11日の成果発表会をもって修了しました。これまでに109社のべ282名が修了生として企業で活躍しています。

職場リーダー養成塾は、中小・中堅企業の間管理職者及び候補者のリーダーシップ力を養成することで、地域企業の持続的成長や発展に必要な将来の幹部候補人材を育成することを目的に行うものです。

カリキュラムでは、コーチングレッスンを基にした「巻き込み力」・異業種でのチームディスカッションによる「他流試合」・塾生が各自の職場の課題解決を行う「社内実践」を通じて、コミュニケーション技法を習得しつつ、課題解決のプロセスを学びます。成果発表会では、塾生や講師だけでなく、来賓者である経営者や上司が見守る中、約2か月間にわたり社内でも取り組んだ課題解決の実践結果や自己分析によるリーダーシップ力の変化、今後の行動計画をプレゼンテーション形式で発表しました。

詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

令和7年1月時点 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

~3月14日(金)	SIC-1大規模修繕工事
2月3日(月)	The HINT68 "価格転嫁"を円滑に進めるためには？

入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (令和7年1月15日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部屋	空室数	賃料/月額 (共益費込・消費税込)
SIC-1 Startup Lab. ○スモールオフィスA (23.6㎡)	1※2	86,570円
○スモールオフィスB (17.3㎡)	7※1※2	70,620円

最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

※12月以降入居可能5部屋、※24月以降以降入居可能2部屋(A、B各1部屋)

SIC ミニセミナー The HINT68

"価格転嫁"を円滑に進めるためには？

～価格交渉は自社の強みをPRする絶好の機会!!～

価格転嫁には、自社の強みを再認識することと、物価や賃金上昇の構造的背景を理解し交渉先の納得感を高める準備が必要です。今回のHINTでは交渉先にとって腹落ち度の高い値上げ交渉について学びます。またセミナー内では事例紹介やミニワークも実施します。

【日 時】 令和7年2月3日(月) 15:00-16:30

【講 師】 川崎 雄史氏
ハンズオン・ジャパン 代表 中小企業診断士

【会 場】 SIC-2 会議室 A

【定 員】 12名(先着順)

【参加費】 無料

【詳細、お申込はこちら】



【お問い合わせ先】 さがみはら産業創造センター片桐、片山

SIC 大望年会を開催しました！



12月17日(火)入居企業交流の一環として、16社41名参加のSIC大望年会を開催しました。

今回はお祭りをテーマとしたミニゲーム大会を行い、入居企業のみなさまには、魚釣りやボウリング、射的などを楽しんでいただきました。最後は恒例のビンゴ大会を行い、盛況な会となりました。これからも入居企業の皆様楽しんでいただけるよう、スタッフ一同、励みます。

編集後記

吉田社長は仕事と時間をやりくりして趣味の時間を捻出し、ときにはハワイなど海外へも行かれるそうです。ハワイには高知城天守を模したマキキ聖城教会があり、戦前から日系移民の拠り所だったとか。皆さんには、どんな拠り所がありますか？SICは中小企業の拠り所となるよう専心いたします。本年もよろしくお願いたします。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>